

ドイツ各州も大学予算に大なた

German states wield the axe

QUIRIN SCHIERMEIER 2010年6月24日号 Vol. 465 (966)
www.nature.com/news/2010/100622/full/465996a.html

ドイツでは、科学研究を存続させるための連邦政府の努力とは裏腹に、一部の州政府が大学予算の削減に動いている。

ドイツの連邦政府は、科学と高等教育を強力に支援しているが、その一方で、ドイツの公的財政の危機による犠牲者が出始めた。財政状況の逼迫した州が、大学予算削減の準備に着手したのだ。

6月中旬、シュレーズヴィヒ＝ホルシュタイン州では、数千人が州都キールに集まり、まもなく実施されるリューベック大学医学部の閉鎖に反対する集会を開いた。「2011年の冬学期から医学部の新入生の受け入れを中止せざるを得ないなんて言語道断です」。こう話すのは、同大学で構造ウイルス学を研究するRolf Hilgenfeldだ。リューベック大学に限らず、ドイツ国内の大学の研究者は、今後の事態の悪化を心配している。

連邦政府は、5月に発表した数十億ユーロ規模の公共支出削減から、ドイツ研究振興協会（DFG）などの国家機関を除外した。しかし大学に対して資金助

成をしている州の多くは、助成予算の維持に四苦八苦している。例えばヘッセン州政府は、今後5年間、大学予算を毎年3000万ユーロ（約34億円）カットすることを5月に発表した。ザクセン州内の各大学も、同じような予算削減に直面している。

また、シュレーズヴィヒ＝ホルシュタイン州政府は、公共支出を毎年1億2500万ユーロ（約140億円）削減して、迫り来る財政赤字の穴埋めに充てることを5月に発表した。これによって大打撃を受けるのが、科学と高等教育だ。リューベック大学の予算は、2015年から年間予算総額の30パーセントに当たる2400万ユーロ（約27億円）が減額される。この予算削減で、医学部が閉鎖されるだけでなく、大学の存立自体が脅かされている、と同大学の研究者は話す。

リューベック大学は、計算医学と計算

生命科学の大学院を運営しており、炎症の医学研究に関する総額3500万ユーロ（約40億円）の「エクセレンス・クラスター」の一翼も担っている。これら2つのプログラムは、連邦政府から助成を受けている。いずれも廃止される可能性が高い、と同大学のPeter Dominiak学長は語る。

提案された予算削減は、州議会の承認を必要とし、採決は12月に予定されている。しかし、一部の研究者は既に大学を離れる準備を始めている。「これによって大学は大きなダメージを受け、私が、ここで研究を続ける意味がなくなります」と神経科学者Jan Bornは話す。彼は、今年の3月に、睡眠と記憶の研究により、ドイツで最も荣誉あるライプニッツ賞を受賞し、250万ユーロ（約2億8000万円）の研究助成金を受け取っている。

DFGと州立大学の協会であるドイツ大学長会議（HRK）の両首脳は、リューベック大学の予算削減に懸念を示している。HRKのMargret Wintermantel会長は、シュレーズヴィヒ＝ホルシュタイン州のPeter Harry Carstensen首相（ドイツキリスト教民主同盟）にあてた書簡の中で、こう述べている。「このような措置は、リューベック大学だけでなく、シュレーズヴィヒ＝ホルシュタイン州、ひいてはドイツ全土に負の影響が広範囲に及ぶ失政といわざるを得ません」。

（翻訳：菊川要）